

受難節第4主日礼拝 説教「心からの気持ち」要約

ヨハネによる福音書 第12章1～8節

日本キリスト教団茅ヶ崎堤伝道所

2024年3月10日

① マリアがイエス様にしたこと

イエス様が十字架にかかる一週間ほど前に、とても驚くことができました。ベタニアに住むマリアという女の人が、イエス様の足に香油を塗り、自分の髪でぬぐったのです。このことをイエス様はとても喜び、そして十字架へと向かっていく力も与えられました。女の人がイエス様の足に香油を塗り、それを髪でぬぐったという出来事は、四つの福音書すべてに記されています。今朝、拝読していただいたヨハネによる福音書の記事では、イエス様が十字架にかかるための準備というところが強調されています。場所はイエス様の友人でもあるマルタ、マリア、ラザロの家です。そこでマリアは、高価な油をイエス様の足に塗り、自分の髪でそれをぬぐいます。使われたのは三百デナリオンもするという「ナルドの香油」です。一デナリオンは一日の賃金にあたる額ですから、とても高価なものだったことがわかります。周りの人はみんな驚いたことでしょう。これを見ていたユダは、「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか」と言いました。

② 「油を注ぐ」という言葉の意味

「油を注ぐ」という言葉には幾つかの意味があります。先ず旧約聖書のヘブライ語では、油注がれた者は「メシア（救い主）」で、新約聖書のギリシャ語における「キリスト」と同じ意味です。又、王や預言者、大祭司など特別な人がその仕事に就く時にも油が注がれました。そして、死者を葬る時にも油を塗って布で巻いてからお墓に納めました。マリアがイエス様に油を塗ったという行為は、これら三つの意味をすべて含んでいると考えられます。イエス様は救い主であり、神様から特別な使命を与えられており、これから十字架上の死へと向かわれるのです。ユダは、こんな高いものを一瞬で使ってしまうなんて、もったいないと思ったのでしょうか。同じように、そこにいた人たちも、マリアがどうしてこんなことをするのか、よくわかりませんでした。マリアはイエス様に対する感謝の気持ち、そして大切にすることを大切にしたい気持ちからイエス様に塗りました。イエス様だけはそれを理解しました。心からのマリアの気持ちを受け取って、イエス様は十字架に向かって進んでいくのです。

③ 心からの気持ち

以前「それって、あなたの感想ですよ？」という言葉が流行しました。この言葉の背景に「あなたの感想や気持ちじゃなく、もっとちゃんとした証拠を出して下さい。きちんとデータを知って、それに基づいて言って下さい」という意味があると思います。マリアがイエス様に油を注いだ事と、ユダが「そんなもったいないことをしないで、どうしてお金に困っている人にあげないの？」と言った事、どちらの方が私たちの心に響くでしょうか。ユダの言った事にも、考えれば一理あるような気がします。しかしユダの価値観の中心にあるのは、貧しい人ではなく、お金だったのでしょう。ユダの思いは「それって、あなたの感想ですよ？」という言葉の背景にあるものと似ています。マリアの行いは、決してお金だけが全てじゃなく、もっと大切な事があるんだよって事を私たちに教えています。数字に表せない、もっと大切なものがあります。損得ではなく、心からの気持ちでその人のためにしてあげる事。これが誰かを大切にすることです。その気持ちは受け取った人の心に届いて、励ましや勇気を与えます。イエス様もマリアの行いに、深く力づけられた事でしょう。イエス様はマリアの心からの気持ちを受け取り、自分が十字架につけられる不安や恐れを受け入れて、立ち向かう気持ちが生まれました。誰かを大切にすることは、その人を変えていく力があります。